

研究種目：基盤研究（C）  
研究期間：2006～2009  
課題番号：18500427  
研究課題名（和文） 慢性脳血管障害における心身機能障害の帰結とは？  
－発病 10 年間追跡調査研究－  
研究課題名（英文） Outcome Prediction for the Mental and Physical Functions of Chronic Stroke Patients –The Follow up Study at 10 Years after the Onset of Stroke－  
研究代表者  
澤 俊二（SAWA SHUNJI）  
藤田保健衛生大学・医療科学部・教授  
研究者番号：80274976

研究分野：リハビリテーション  
科研費の分科・細目：人間医工学/リハビリテーション科学・福祉工学  
キーワード：脳血管障害、リハビリテーション、心身機能障害学、疫学、帰結予測

#### 1. 研究計画の概要

リハビリテーション医療を受けた、初発で、意志の疎通が可能な 40 歳以上の慢性期脳血管障害者の心身機能の帰結（帰結予後を含む）に関して、発病から 10 年間にわたる前向きコホート研究を基に明らかにすることである。具体的には、リハ専門病院に入院した条件設定した脳血管障害者 80 名に対し、入院時、退院時、発病 1 年時、発病 2 年時、発病 3 年時、発病 4 年時、発病 5 年時、発病 6 年時、発病 7 年時、発病 8 年時、発病 9 年時、発病 10 年時の縦断的調査を通して、脳血管障害の心身機能の経過および帰結・帰結予測の分析検討を行うものである。同様に、介護保険利用者と非利用者の心身機能の変化について調べ、利用者と非利用者の心身機能を比較検討する。さらに、機能障害・活動制限・社会参加制約等心身の障害各々の変化と傾向、関係等を分析し、効果的な心身機能の障害悪化を予防するプログラムと方策を開発し、さらに退院時および在宅での指導、地域サービスへの種々の施策等の考察を行う。

#### 2. 研究の進捗状況

平成 21 年 3 月現在、脳血管障害発症月での調査は順調に進み、発症 9 年時の調査の 50%を終えた。4 月より発症 10 年目の調査が開始される。データの打ち込み作業と見直し精査の作業が 8 年時までの 30%までしかできておらず遅れている現状にある。

#### 3. 現在までの達成度

当初の計画通り進展している。現在、発病 9 年目の対象者を調査中で、発病 5 年までの分析を終了し、学会および論文として発表した。研究成果として、運動機能および ADL 機能は、退院後、一部改善はあるがおおむね維持されているが、鬱状態、QOL、情緒的支援ネットワークは悪化し、社会生活能力の改善はわずかであった。かた、介護保険制度利用者は、非利用者に比べ、ADL 機能は落ち続け、鬱状態の割合は 5 年目で 90%を超え、QOL の悪い群は 60%を超え、危機的状況にあることを見いだした。

#### 4. 今後の研究の推進方策

(1)平成 21 年度には、発症 10 年時の調査の 50%を終える予定である。また、発症 10 年時まで終了したデータは全ての打ち込み、精査を終え、発症 9 年時までを分析をして最終報告書を作成する。

#### 5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 13 件）

①澤 俊二, 大仲 功一：リハビリテーション

と QOL, 臨床看護 33(12):1876 - 1882, 2007  
査読無

②澤 俊二: QOL と ADL ・ IADL の関係—脳血管障害者の追跡調査から—. 作業療法ジャーナル 37(6):469-476. 2003 査読無

③ 澤俊二, 磯博康, 伊佐地隆, 大仲功一, 安岡利一, 上岡裕美子, 岩井浩一, 園田茂, 南雲直二, 大田仁史, 嶋本喬: 慢性脳血管障害者における心身の障害特性に関する経時的研究—心身の障害予測因子に関する分析—. 茨城県立医療大学紀要 7:69-78. 2003 査読有

④澤 俊二, 嶋本 喬, 磯 博康, 伊佐地 隆, 大仲 功一, 安岡 利一, 上岡 裕美子, 岩井 浩一, 大田 仁史, 園田 茂, 南雲 直二: 慢性脳血管障害者における心身の障害特性に関する経時的研究—リハビリテーション専門病院の入院・退院時比較—. 日本公衆衛生誌 50(4):325-338. 2002 査読有

⑤澤俊二, 嶋本喬, 磯博康, 伊佐地隆, 大仲功一, 安岡利一, 上岡裕美子, 岩井浩一, 大田仁史, 園田茂, 南雲直二, 本間雄太, 増田直美, 城哲也, 森田由希子: 脳血管障害発病1年時の介護保険利用別にみたうつ状態とQOLの比較-The IBARAKI Stroke Rehabilitation Follow up Study- 茨城県立病院医学雑誌 19(1): 49-58. 2001 査読有

[学会発表] (計 32 件)

①Shunji Sawa, Hiroyasu Iso, Shigeru Sonoda, Takashi Isaji, Koichi Onaka, Toshikazu Yasuoka, Yuriko Yamakawa, Megumi Suzuki, Masayuki Yamada, Eiichi Saitoh, Takashi Shimamoto, Hitosi Ota: The IBARAKI Stroke Follow up Study - Post Stroke Depression and QOL at 5 Years after the Onset of Stroke- . the ISPRM 2009, Istanbul.

②澤 俊二, 園田 茂, 伊佐地 隆, 大仲 功一, 安岡 利一, 山川 百合子, 南雲 直二, 金田

嘉清, 才藤 栄一, 大田 仁史: 慢性脳血管障害者の総合的追跡調査 (第 3 報) QOL (Quality of Life) - 発症 5 年までの推移-. 第 45 回リハ医学会学術集会. 2008

③ 澤 俊二, 園田 茂, 伊佐地 隆, 大仲 功一, 安岡 利一, 山川 百合子, 南雲 直二, 金田 嘉清, 才藤 栄一, 大田 仁史: 慢性脳血管障害者の総合的追跡調査 (第 2 報) - 情緒的支援ネットワーク発症 3 年までの推移-. 第 44 回リハビリテーション医学会学術集会. 2007

④澤 俊二, 園田 茂, 磯 博康, 大田 仁史, 伊佐地 隆, 大仲 功一, 山川 百合子, 嶋本喬: 慢性脳血管障害者の総合的追跡調査 (第 4 報) 発病 3 年時下肢機能と移動能力の推移. 第 65 回日本公衆衛生学会学術集会. 2006

⑤ 澤 俊二, 園田 茂, 伊佐地 隆, 大仲 功一, 安岡 利一, 山川 百合子, 南雲 直二, 金田 嘉清, 才藤 栄一, 大田 仁史: 慢性脳血管障害者の総合的追跡調査-SIAS 麻痺側上肢機能の発病 6 ヶ月から 3 年の推移-. 第 43 回リハビリテーション医学会学術集会. 2006

[図書] (計 5 件)

① 澤俊二: PT&OT リハビリポケットノート. メデイカ出版, 2009

② 鷺田孝保編著、澤俊二他: 作業療法士 イエローノート. メデカルビュー, 2007

③ 大田仁史、浜村明德、澤俊二、下斗米貴子: 地域リハビリテーション論 vol1, vol2, vol3、三輪書店, 2004, 2005, 2006